

気温変化によるヒドリガモの移動

○神山和夫(バードリサーチ)・牧麗佳

地域的な気温の変化は、越冬中のカモ類が移動する原因の一つになっているのではないかと推測できる。これを確かめるため、2008年10月から2009年5月まで行われた環境省の渡り鳥飛来状況調査の調査地のうち、関東より西でヒドリガモの個体数が多かった12カ所の調査地について、気温と個体数が減少する時期の関係を調べた。関東以西を対象としたのは、この地理的範囲がヒドリガモの主要な越冬地域になっているためである。

まず全体的な傾向を見るため、すべての調査地で、ヒドリガモの数がそれぞれの調査地の最大個体数の70%以上になっている時期を調べてみると、1月以降は70%に満たない調査地が増加していくことから、1月以降に春の渡りか、もしくは群の分散が起きていることが考えられる。

さらに詳しく調べると、個体数の減少パターンは大きく3つに分類することができた。12月以前に数が減る調査地は北陸と滋賀県、1月に数が減る地域は九州、2月に数が減る地域は瀬戸内海に面した地域に多かった。

そして九州の調査地は瀬戸内海の調査地に比べて気温が低いことから、個体数減少は気温の高い地域から先に起きていることが分かった。

一方、12月に個体数が減少した北陸と滋賀県は、秋の飛来直後だけ個体数が多いことから、飛来時期に一時的に使用されている場所ではないかと考えられる。しかし、数が減少する時期が気温や積雪などの気候に影響されるのかどうかは分からなかった。